

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200016		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム なでしこ 1		
所在地	福島県若瀨郡鏡石町高久田136番地1		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを持ち、いきいきとして安全、安心に生活が送られるよう、平成28年3月1日開所させていただきました。周辺には果樹園農家さんが多く、地域の方々が温かみがあり、のんびりと生活が送れる所でもあります。近くにお越しの際はいつでもお寄り頂けるような家庭的なホームをめざしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 生活の中での会話や関わり合いを大切にし、普段着選び、買い物、散歩、掃除など、生活の中に利用者の意志や意向を反映した生活づくりを大切にし、支援に取り組んでいる。
2. 利用者が地域の一員として生活できるよう、地域との関わりを大切にし、地区自治会に加入し一斉清掃への参加(職員)や地区御輿祭りの休み所として駐車場を提供したり、視察研修(行政・民生委員等)、ボランティアの受け入れを行い交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と関わりながら、いきいきとして安全、安心に生活が送られるケアの提供する、という理念の下に、利用者の意向に沿った介護の支援を実践している。	事業所開設に伴い、全職員で話し合い理念を作成した。その理念を事業所内に掲示し、申し送り時に唱和しながら理念を共有し、年間目標を掲げながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会行事(お祭り)、地域の一斉清掃の参加、地元の食材を譲って頂いたり地域の一員として日常的に交流している。	地区自治会に加入し、地区一斉清掃に職員が参加し、祭りの御輿休み所に駐車場を提供しながら、地域との関係づくりに努めている。また、散歩や行政・民生委員の事業所見学、更にボランティア受け入れなどを通して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問や行事の依頼の協力等で、認知症のケアを実践しながら交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や利用者の状況、事故(ヒヤリ)等について報告し、意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている。	開設して間もないが、行政・区長・民生委員等が委員となり運営推進会議を開催できる運びとなり、事業所の運営状況や利用者状況を報告し、委員からの質問や意見、助言を頂き、それをサービスの向上に活かしている。今後、会議は概ね2ヶ月に1回の開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者や地域包括支援センターと連絡を取り、協力を頂けるような関係作りに努めている。また、町の介護保険事業計画等策定委員会にも参加している。	管理者は、町の介護保険事業計画策定委員になっており、町担当者とは日頃から事業所の実情や利用者の状況報告、入居者希望者の相談等を通し関係づくりに努め、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中ホームの玄関は施錠せず、職員によるさりげない見守りを行っている。一緒に散歩をしたり、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	研修会や会議の中で、身体拘束をしないケアを徹底するよう取り組んでいる。また、抑制的な言葉かけなどで不適切な対応が見られた際は管理者やフロア主任、職員間で話し合い、適切な対応を行っている。玄関の施錠は夜間だけとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について理解し、言葉の虐待防止に努め、職員同士が話し合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し、制度への理解を深めている。必要な際には、制度を利用出来るように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、十分に話し合う機会を設け、分かり易い説明を行い、理解を得た上で契約を行っている。重要事項の変更がある場合でも説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や面会、電話等でも気軽に話せるように働きかけている。	直接意見や要望を表せる利用者が多く、日頃の関わりの中で利用者の意見や希望を聞くよう努めており、家族からは面会時や電話連絡時等に意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望を運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、スタッフ会議やカンファレンスを行い全職員が意見を言えるようにしている。日々の中でもいつでも気軽に話し合える関係をつくっている。	管理者は、日頃から職員の意見や要望を出せる職場づくりに努め、各種会議の中でも活発に意見や提案を出してもらい、出された意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、定期的に管理者と面談の機会を設けている。また、介護福祉士の模擬試験の実施や介護支援専門員の受験料補助等により、職員の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や管理者は、各職員が社内外の研修に積極的に参加出来るよう配慮している。また、社内研修は職員の能力に応じた計画を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南地区の事業所でネットワークが出来ており、情報の交換を行ったり、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、利用者様と積極的に関わりを持ち、職員間で、不安や気付きの共有を図っている。本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望や思いに耳を傾け、利用者様の状況に合わせたサービスの支援を行っている。家族と連携を取りながら、安心して生活出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や御家族の希望や状況に合わせたサービスの支援が出来るよう情報の共有に努めている。また、必要に応じ他サービスも検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側と言う関係ではなく、出来ることは、職員と共に行い、役割を意識した生活が送られるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また、外出や外食の協力もお願いもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来られるよう雰囲気を作り、友人や馴染みの方が来たりしている。また、家族と外食や外泊が出来るように支援している。	家族や友人、知人などの面会時には、お茶や椅子を準備し、居室でゆっくりしていただける雰囲気作りに努めている。また、家族の協力で外食や親族への外泊、理美容院へ行くなどして関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通して、利用者同士が関わりをもてるよう働きかけている。また、利用者様同士の関係性など職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は退居された方はいないが、契約終了後も気軽に来所して頂けるような事業所作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して生活が送られるよう、希望や意向を把握し、申し送りやカンファレンスで共有している。一人一人の意向に沿ったケアを行っている。	利用者が自分の希望や意向を表せる方が多く、日頃から利用者の意向を確認しながら自己決定ができるよう取り組み、伝達ノートを活用し、会議で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の情報収集や、日々の会話から情報を得たり、御家族より話を聞いたりし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や状態など、申し送りで情報を共有し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族から要望を聞き取り、ケース会議で職員で話し合い、利用者に合った介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を大切に、モニタリングやカンファレンスを毎月開催し、職員が意見を出し合い介護計画を作成している。計画の見直しは3ヶ月を基本としているが、状態変化時は状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の現状把握を十分に行い、日々の変化を見逃さず記録し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族の状況や変化に合わせ、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と一緒に町の一斉清掃を行ったり、散歩時には挨拶を交わしたり、関わりを持つようにしている。また、主食のお米等近隣の農家さんより分けて頂いたりもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族の意向を取り入れ、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、本人の状態に合わせ、御家族と相談しながら訪問診療への切り替えを行なっている。	入居時、受診について利用者や家族と話し合い、かかりつけ医又は協力医、訪問診療などの適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果については、月末に「病院診断、服薬記録」を家族に郵送し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所する際には、申し送りで情報の共有を行っている。また、いつでも相談できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今の所、入院された方はいないが、入退院の際には、医療関係者と情報の共有を行い、利用者様が安心して退院出来るよう、支援したいと考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、利用者様と御家族と十分に話し合い、書面にて意向を確認している。医師との連携も取れており、重度化や終末期の医師の協力が得られるようにもしている。	入居時に重度化、終末期支援について説明し、同意を得ている。看取りは行っていないが、経過を見ながら家族と相談し、その後の方針を共有し、体制を整えている。看取りに関する職員研修は年間計画のもと実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを掲示し、周知徹底を行っている。また、AEDを使用しての心肺蘇生の仕方を定期的に学んで実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの総合避難訓練や毎月の防災訓練を行い、利用者が昼夜を問わず避難出来るようにしている。	防災訓練マニュアルのもと、毎月避難訓練を実施している。訓練には運営推進委員や地域の方の参加もあるが、訓練における職員の役割分担が明確になっておらず改善が必要と思われる。非常時用備蓄品はシート、缶詰類、水などを備蓄している。	防災計画に則り、職員の役割分担を明確にした訓練計画を作成し、訓練を実施して欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為、一人一人に合わせた声掛け等、配慮しながら支援している。	日頃から利用者の思いや意向を汲み取りプライバシーに配慮した言葉かけや働きかけを行っている。利用者の個人情報は施錠可能なロッカーで適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度利用者様の思いを確認しながら支援している。また、自分の思いを表現しやすいように声掛けを行ったり、自己決定できるように働きかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングやソファ等、一人ひとりのペースを大切に、好みの場所で過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院でのカットや出張散髪により、利用者様の好みに合わせたカットをされている。好みの洋服を選び、その人らしくおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	おいしく食事が頂けるよう、パタカラ体操をおこない、職員と利用者様が一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。また、テーブル拭きや下膳等、出来ることを行って頂いている。	業者によるチルド配食サービスと地元からの食材の購入や差し入れ等を使い、利用者の嗜好に合わせた料理を提供している。また、テーブル拭きや下膳等を利用者と職員とが一緒に行い、家庭的な楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握し、栄養のバランスや水分摂取量を確保している。また、水分量や食事量の少ない利用者に対しては家族に協力頂き、嗜好品の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きが出来ない方には、食後に介助にて口腔ケアを行ったりしている。他の利用者様に対しても歯磨きやうがいの声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、一人一人声掛けをしてトイレ誘導を行い一日でも長く自分の下着でいられるよう支援している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮したトイレ誘導を行っており、現在、約半数の利用者が布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、バランスのとれた食事の提供や多目に水分摂取をして頂いている。また、ラジオ体操や散歩をしたりと身体を動かし個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に声掛けをしながら、要望に合わせて入浴を支援している。入浴剤を使用して温泉気分を味わえる支援もしている。	入浴は基本的に週2回、利用者の希望する曜日、時間帯に行っている。入浴剤やゆず湯等季節感を取り入れゆったりと楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況を把握し、声掛けや誘導し、休息や安心して眠れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の詳細等は、ファイルに保管しており、直ぐに確認出来る様にしている。また、薬の変更や症状の変化時は記録し、申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り、食事の後片付け等、お手伝い頂いている。また、歌を聴いたり、散歩や体操など個別の好みに合わせ対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との散歩や御家族との外出を支援している。事業所の行事では、バスを利用し、出かける機会を設けている。	事業所周辺の散歩や日常的な買い物には職員が同行し、利用者の自宅や、親戚宅への訪問は、家族の協力を得て行っている。また、事業所行事としてバスで観光を兼ねた外出支援も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者様がいつでもお金を使えるよう説明し、近くへ買い物に出かけ、利用者様の希望に応じた支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族関係に配慮して、日常的に自由に利用出来るよう支援している。また、必要に応じて手紙の代筆や投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者様が安心し、自由にして頂けるようなスペースを設けたり、居心地良く過ごせるよう努めている。	共用空間が居心地の良いスペースになるようソファやテーブル、テレビ等が配置され、壁には、利用者と職員が一緒に作成した季節感のある作品が飾られている。湿度、温度、音、光等の管理は職員が行っており、利用者一人ひとりがゆったりと過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いに過ごせるよう、場所や席の配置等工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室内では利用者様が安心して過ごせるよう、御家族と相談しながら、馴染みの物を配置した生活の場を取り入れている。	利用者、家族と相談して、利用者一人ひとりのプライバシーを確保しながら、今までの自分の部屋のように安心して過ごせる居室づくりがなされており、自宅で使い慣れたテレビ、整理タンス、冷蔵庫、仏壇など馴染みの物が持ち込まれている。なお、清掃は定期的に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるよう、バリアフリーとなっており、各居室や共有スペースに手すり等を設置している。		